

・特記事項

1. 仏教専修科

1-1. 理念

苫小牧駒澤大学のもう一方の特色として、本学の淵源そのものに由来する仏教専修科教育があげられる。「建学の基本理念」「沿革」等に詳説するとおり本学の始まりは、曹洞宗が禅と学問の研究そして実践のために、文禄元(1592)年に設立した「旃檀林」に遡るためである。仏教専修科は曹洞宗が設置する曹洞宗教師養成機関である。在学中に所定の課程を修めることにより曹洞宗教師資格(2等教師)を取得することができる。

世界宗教である仏教は空間的にも時間的にも広汎に伝播し、国際的で高度な精神文化であるといわれる。国際文化学部設置される仏教専修科は極めて時宜に叶ったものであるといえよう。21世紀に入り日本でもさまざまな分野において“国際化”の重要性が指摘されている。仏教の「現場」においても国際化は要請され、仏教の専門家として檀信徒を説化する寺院住職にもそれは当てはまる。国際化のためには、他の宗教や異文化との比較において仏教のもつ特長を理解することが必要であり、日本文化の歴史的な背景をふまえた上で、日本に根付いた仏教文化の特性を把握する必要がある。更に、現代日本において国際化とともに重視されるのが“心の豊かさ”である。時代の変化を見据えながらしかも時流に流されない“豊かな心”の涵養が強く望まれる。仏教専修科においては、日本人の精神文化を支えてきた一つの大きな要素として位置づけられる仏教を多角的に学習しながら、曹洞宗寺院住職としてのより高度な専門的知識技能を修得し、“国際性をもつ心豊かな人間”の育成をめざしている。

1-2. 概要

苫小牧駒澤大学仏教専修科は平成11(1999)年4月に開設された。開設に当たって制定された「仏教専修科規程」には、その目的を以下のとおり定めている(【資料編-1】参照)。

「仏教専修科は、本学に在籍する曹洞宗寺院子女並びに曹洞宗の僧籍を有する者に対して、在学中に無試験で2等教師の補任をうけることが出来る資格を取得させるために宗乗・余乗の知識を修得し、曹洞宗僧侶としての使命を自覚せしめると共に、宗門の行持・威儀・作法その他、宗門の教師として必要な事項について修得させることを目的とする。」

上記の目的を達成させるために、禅学実習(坐禅・法式・声明)8単位、宗学4単位、仏教学4単位、教化学2単位、宗教一般4単位、仏教一般4単位、禅一般4単位、計30単位の教育課程を定めている。また、法式・声明・実習のため適宜、研修会を行っている。教育課程の要件単位を修得し、曹洞宗宗制による特別安居を修了することにより、無試験で曹洞宗教師資格(2等教師)に補任される。

現在、仏教専修科に次の職員を置いている。科を総括し指導の任に当たる科長 1 名。講義・実習を担当する講師 5 名。幹事及び書記各 1 名。事務担当として教務課職員が配置されている。

仏教専修科に所属する学生は、表 -1-1 のとおりである。

表 -1-1. 仏教専修科所属学生数（5月1日現在）

年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
仏教専修科数 所属学生数	15	30	23	23	34	57
	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
	67	76	72	63	57	46

1-3. 施設・所蔵図書

仏教専修科教育は、国際文化学科「仏教文化コース」の教科内容とほぼ重複しており、学科の卒業要件単位に組み込まれている。よって授業その他、教育施設、図書等はすべて学内施設設備を利用している。学内において仏教専修科ととくに関係の深い施設をあげれば、大講堂に一仏両祖像を安置し卒・入学式時や、法要儀式等の時に実践的に活用している。平成 12(2000)年に坐禅堂(90 単)が完成し、禅学実習、各種坐禅会に使用している。研究講義棟に「仏教・禅センター」を設置し、曹洞宗学関係図書約 3,000 冊を架蔵し、学生が自学自習できるように便宜を図っている。

図書館・情報センター及び仏教・禅センターの図書は、前進の駒澤大学苫小牧短期大学、平成 11(1999)年に閉校した駒澤大学北海道教養部の仏教・禅・曹洞宗学関係図書をすべて架蔵しているため十分な図書を有している。

1-4. 活動

1-4-1. 課外活動

仏教専修科の主たる活動は授業によるものであるが、教科内容を補完するものとして通年で様々な活動が展開される。まず大学主催の月例法要。釈尊・両祖降誕会、二祖三仏忌、祝祷、盂蘭盆施食会等を仏教専修科の学生参画型で行っている。次に僧堂研修会。札幌市中央寺専門僧堂・北海道管区センター等の協力を得て年 1 回～数回、宿泊で僧堂研修を行っている。また、大学近隣の寺院における法要儀式に参加し研修を行っている。例年大学祭には仏教専修科の企画行持として坐禅会・講演会・法楽を行っている。

また、日本赤十字社や社団法人シャンティ国際ボランティア会（SVA）を通じた募金活動や国際ボランティア活動など多岐にわたったボランティア活動を展開している。毎年 12 月第 1 週に釈迦の悟りを記念した早朝坐禅会「臘八撮心^{ろうはつせっしん}」も行っており一般市民にも開放している。



日本赤十字社への募金活動

1-4-2. 仏教専修科道芽会

仏教専修科道芽会は仏教専修科所属の学生による学生自主団体である。学内ではクラブ活動団体として位置づけられている。ともに曹洞宗の僧籍を有する宗教者の卵として問題意識を共有し多岐に活動を展開している。平成 15(2003)年 5 月に制定された会則に目的を以下のとおり定めている。

「本会は、苫小牧駒澤大学の建学理念である行学一如の心得をもって、仏教専修科学生の交友と連携を深め、曹洞宗宗侶・曹洞宗寺院住職を目指す者の問題意識を共有し、共に語り合い、学び深め合い、多岐に活動を展開する事を目的とする。」

とあり、学生相互の交流と仏教専修科の連携に大いに貢献している。上記の課外活動も道芽会の活動に負うところが大きい。主たる活動は例年、大学祭における企画行持である。高名な学者や大本山永平寺特派布教師等を招いての「禅をきく会」と市民向けの坐禅会、寄席やマジックショーなどのチャリティーショー等を 2 部構成、3 部構成で行っている。「アメリカ人ピアニストが見た禅と日本文化」と題して講演とピアノ演奏会や、和太鼓演奏など例年好評をばくしている。こうした活動は学生にとっては不慣れで困難をとまなうことがあるが、様々な困難を乗り越えることによって大きな成長を見ることができ、道芽会学生にとって貴重な経験である。

1-4-3. 課外ゼミ

激動、そして時代の変貌を遂げる今日、時代に即して宗教者のありようも変化しなければならぬ。時代の変化に寺院のあり方、宗教者の心のありようはついて行っているか。変わってはならない、人として大切なものを持ち続けているか。葬式仏教と揶揄される日本仏教界にあって、私たちは社会と人々の苦しみに正面から向き合う宗教者としての活動が出来るか。鋭敏な時代感覚を保ち続けているか。死と生、ぎりぎりのところで立ち会うことが出来るか。宗教者に与えられた課題は大きい。ゆめゆめ努力を怠ってはならない。こうした問題意識の下、セメスター内の水曜日 18:00 から課外ゼミ「仏教専修科ゼミ（通称「仏専ゼミ」）」を行っている。授業時間内では十分に扱うことのできない、「宗教者の内面」に向きあう時間として位置づけ、自由活発に討議できる時間としている。また時には、授業時には質問できないような初歩的な学問上の疑問や悩みなどを持ち寄り、教員の立場で対応するのではなく、大学人として、宗教者としての一先輩として科生とふれあっている。